

明神小だより

銚子市立明神小学校学校便り
VOL.13 令和8年1月30日

令和7年度 学校教育目標 「心豊かに自律できる子供の育成」
『楽しく、面白く、やってみたいをやってみよう!』

心と心をつなぐ絆～第61回冬季交歓会を終えて～

1月23日、24日の2日間、群馬県片品小学校との第61回冬季交歓会が行われました。利根川の上流に位置する片品小学校と、その下流にある本校が、60年以上という長きにわたって心の交流を続けてきたことは、本当に素晴らしいことです。コロナ禍を乗り越え、新たな形を模索しながらも、途絶えることなく交流を続けてこられたのは、多くの方々の温かい想いに支えられてきたからこそだと感じています。

片品を訪れると、銚子から来たとお伝えするだけで、地域の方々が笑顔で交歓会の思い出を語り始めてくださいます。世代を超えて受け継がれてきた思い出話に耳を傾けると、「交歓会」「明神」という言葉が持つ特別な響きを感じずにはられません。初対面であっても、この共通の思い出がすぐに心の距離を縮めてくれることに、改めてこの行事の素晴らしさを実感いたしました。

バスが片品村に近づき、車窓から雪景色が見えると、子供たちから大きな歓声が上がりました。片品小学校のお子さんたちにとっては当たり前な景色が、本校の子供たちには特別な感動を与えてくれるのです。1日目には、そり遊びや雪遊びで思いっきり体を動かし、夜にはカルタ大会などのレク大会で盛り上がりました。2日目には、炭アートクラフトで創作活動を楽しみ、クロスカントリーで片品小のグラウンドを駆け抜けました。最初は緊張していた子供たちも、すぐに打ち解けて、笑顔で楽しく過ごす姿を見ることができました。今回、同行してくださった保護者の皆様の中には、ご自身がこの交歓会に参加された経験をお持ちの方もいらっしゃいました。お子さんたちが楽しそうに過ごしている様子をご覧になって心から喜んでいる姿に、この行事が世代を超えて受け継がれていることの尊さを感じました。これほど温かい気持ちのつながりで受け継がれてきた行事は、本当に貴重なものだと感じています。この素晴らしい行事の歴史の中に、今、私たちが関わらせていただいているということは、本当に幸せなことです。お子さんたちには、このことを忘れずに、大切にしていってほしいと願っています。

今回は今年の夏、私たち明神小学校が片品小学校の皆さんをお迎えする番です。学校だけでなく、地域全体でお迎えできることを楽しみにしております。銚子の海と銚子の自然を存分に楽しんでいただけるよう、準備を進めてまいります。

保護者の皆様、親師会役員の皆様、地域の皆様には、交歓会へのご支援、ご協力をいただき、誠にありがとうございました。



平和への思いを胸に ～房の会による平和学習～

平和への思いを胸に ～房の会による平和学習～

1月22日、退職された先生方で構成される「房の会」の皆様にお越しいただき、6年生が平和学習に取り組みました。

この日は、1945年7月の銚子空襲や広島・長崎への原爆投下について、大型紙芝居や写真資料を用いてお話をいただきました。銚子市が県内で2番目に大きな空襲被害を受けたこと、銚子駅前一带が焼け野原となったこと、清水小学校近くで母親とはぐれた少女が命を落としたことなど、私たちの住む地域で実際に起こった悲劇を知り、子供たちは戦争の恐ろしさを肌で感じていました。

学習の最後に、房の会の皆様から「平和のためにできること」を記入できる手作りのストラップをいただきました。子供たちは真剣な表情で、一人ひとりが考えた想いを言葉にしていました。

社会科の授業でも戦時中の学習を進めている時期でしたので、今回の平和学習は、教科書で学んだ知識と身近な地域の歴史が結びつく貴重な機会となりました。房の会の皆様には、心より感謝申し上げます。

【児童の感想より】

国が戦争で勝つためにたくさんのお金をかけ、たくさんの人を殺していた時代が終わり今のような日本の政治が変わっていき、その中に生きられている自分はとても幸せだと思った。もう二度と戦争が起らないように世界の人に戦争のおそろしさを知ってもらいたい。

これからの暮らしでは、戦争で苦しんだ人たちの分も私の身の回りの人を幸せにしていきたいし、幸せになってほしい。そして、選挙に行けるようになったら、戦いではなく話し合いで政治をしてもらえる人を選びたい。

6年1組 伊豆 成海さん

